

SHARING ONE VISION

荒れた展開のレースを5位完走で、貴重なポイントを獲得

ル・ボーセモータースポーツが参戦するカテゴリーのうちのひとつ、スーパー耐久シリーズの第2戦が4月27日(土)～28日(日)にスポーツランドSUGO(宮城県)にて開催された。8つのクラスに54台がエントリーする中、ST-3クラス(排気量2001～3500cc、後輪駆動)に、ル・ボーセモータースポーツのDENSO Le Beausset RC350は、嵯峨宏紀、山下健太に小河諒を擁して、シリーズチャンピオンを目指し第2戦に臨んだ。

開幕戦・鈴鹿で優勝と幸先良いスタートを切ったが、今回の舞台は東北随一のサーキット、SUGO。狭いコース幅とタイトなコーナーが連続し、さらにアップダウンの差も大きく、アクシデントが頻繁に起きることで“魔物が棲む”と言われている。



予選

4月27日(土)
天候/曇り
コース状況/ウェット

レースウィークは冬のような天候で冷たい雨も降り、予選日となった27日は気温が6℃程度と冷え込んだ。レクスRC350は、最低車重が昨年より20kg増の1,410kgとなり、軽量なフェアレディZ(1,300kg)やマークX(1,390kg)に對しやや不利な条件。さらにDENSO Le Beausset RC350は開幕戦の優勝で25kgのハンディキャップウェイトを搭載しており、アップダウンに富んだSUGOでは苦戦が予想された。しかし、ウェットコンディションとなった金曜日の専有走行1回目はトップ、2回目と土曜日朝のフリー走行ともに2番手のタイムをマークと上々の走り出しを見せた。

冷たい雨は止んだもののウェットコンディションとなった土曜日の公式予選。コースは徐々に乾いていく展開ながら時おり雨も落ちるといった難しい状況となった。この公式予選はA、Bドライバーのベストタイム合算で争われる。ハーフウェット路面となったAドライバー予選では嵯峨が1分40秒808で2番手。序盤に軽いシャワーに見舞われたものの徐々にコースが乾いていったBドライバー予選では山下が1分31秒295で2番手。しかし合算ではトップとなり、2戦連続でポールポジションを獲得した。「合算でポールポジションの1点を獲得できたのは良かった。決勝はドライ路面になり暖かくなるという予報ですが、しっかり走り切りたい」と嵯峨。

小河も完全にドライコンディションとなったCドライバー予選で4位につけ、決勝レースにも期待がかった。



決勝

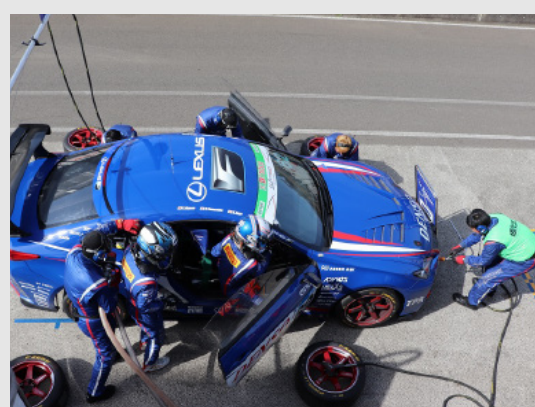
4月28日(日)
天候/晴れ
コース状況/ドライ

決勝日の28日は朝から青空が広がり、ゴールデンウィークらしい爽やかな天候となった。気温も徐々に上がりスタート前には14℃。北風はやや冷たいものの、ようやく寒さが和らいだ。今回はグループ分けで、32台からなるGr.1(ST-X、Z、TCR、1～3)の3時間レース。スタートを務める嵯峨は、スタート直後からウエイトが軽い他車のペースが速く苦しい展開。開始わずか15分ほどでコースアウトして動けなくなった車両があり、この車両回収のためにフルコースイエロー(FCY)が導入され全車速度が50km/hに制限となった。このタイミングでピットインする車両が何台もあり、嵯峨もここでピットインして小河に交代し、給油のみでコースに送り出す。

小河は順位が混乱する中、4位を走行ストップを追いかける。レース開始1時間10分ほどが経過した時点で、マシントラブルのためにコースサイドで停止した車両があり2回目のFCYに。このタイミングでピットインする車両があり、小河はこの時点で5位。そしてレース開始2時間を迎えようとする頃に、アクシデントを起こした車両がコースサイドでストップ。ここでセーフティカー(SC)が導入。このタイミングで小河がピットインして、アンカーの山下に交代。給油とタイヤは左側前後のみの交換とし素早くコースに復帰させる。

山下は6位でコースに戻るが、戻った場所は運悪く上位から1周遅れの位置。それでも山下は諦めることなく粘り強く周回を重ねていく。レース終盤に最終コーナーでクラッシュした車両があり、二度目のSC導入となり、レース残り30分でバトルが再開。直後には上位争いをしていた車両が接触でレースから脱落するなどしたが、山下は最後まで走りきり5位でゴール。ポールポジションと5位という貴重なポイントを獲得した。

次の第3戦はシリーズ中、最も多くのポイントを加算できる富士24時間(5月31日～6月2日)。ここでの優勝を目指し、テストからセッティングを煮詰めて臨む。



チーム監督 **坪松唯夫** Tadao Tsubomatsu

C O M M E N T

重量ハンデを考えると、テストから予選までの流れは非常に満足出来るものであった。決勝はペースが上がらずに苦しい戦いにはなったが、我々の力ではどうしようもない不運があり順位を落としたこと以外は前向きに考えられるレースだった。

Driver **嵯峨宏紀** Koki Saga

C O M M E N T

今週末、ドライコンディションでドライブするのは初めてでしたので、スタート前のウォームアップでセッティングを調整したのですが、決勝ではペースを上げることができず苦しいレースになりました。しかし大きなウェイトを積まずに次の富士24時間という天王山に臨めます。昨年のリベンジを果たすべくチーム一丸となって頑張りたいと思います。

Driver **山下健太** Kenta Yamashita

C O M M E N T

最後の90分という時点で良いタイミングでドライバー交代できましたが、運悪くFCYではなくSC導入となりその時点で上位とは周回遅れになってしまいました。決勝ペースは厳しかったですが、ピット作業も早く、チームは少しでも前でゴールさせようと努力してくれたのですが不運でした。次の富士24時間は必ず勝たなければならないレース。テストで準備をしてしっかり戦うつもりです。

Driver **小河諒** Ryo Ogawa

C O M M E N T

決勝のペースは思うように上げられず苦戦しましたが、ウェイトを大きく増やすことなくポイントだけは加算できましたから、富士24時間にはプラスになる要素が増えました。テストでセッティングや作戦を見直して最終的にはチャンピオンを獲得したいです。今回チームスタッフに新しい仲間が増えましたが、チーム自体が強くなったと感じました。一緒に頑張って24時間を勝ちたいです。

スーパー耐久 第2戦 レース結果

順位	車番	ドライバー	車名	予順位
1	38	堀田 誠/阪口良平/堤 優威	ADVICS muta racing RC350 TWS	5
2	68	服部尚貴/脇坂薫一/吉田広樹	埼玉トヨペット Green Brave GR SPORTマークX	3
3	14	山崎 学/安宅光徳/伊橋 勲	HIRIX☆YAIMA☆Z34	4
5	62	嵯峨宏紀/山下健太/小河諒	DENSO Le Beausset RC350	1

シリーズポイントランキング

順位	チーム	ポイント
1	TRACY SPORTS #38	44.5
2	Le Beausset Motorsports	42
3	埼玉トヨペットGreenBrave	35

